

一 気仙沼市役所

復興は社会課題の解決を目ざす	菅原 茂	1   1
市長と気持ちを通じ合わせて災害対応にあたる	加藤 慶太	1   5
暮らしに関する情報を被災者に毎日届ける	吉田 克典	1   7
避難所掲示用の広報紙を毎日発行	熊谷 稔	1   8
「遺す」「伝える」ことの重要性を痛感	佐藤 哲	1   9
情報共有で被災現場と各機関をつなぐ	大和田 一彦	1   10
食料・物資確保、避難所運営、支援自治体への対応	赤川 郁夫	1   12
ワン・テン庁舎一階からの避難完了を確認	金野 功	1   14
瞬く間に避難者を探す掲示コーナーが一杯にあふれる業務 不足する人員 応援職員も含めた人員配置で対応	鈴木 忠春	1   15
震災対応の中、退職と採用の辞令交付式を開催	菅原 正浩	1   16
被災者対応の前線で苦悩しながらの数箇月 家族・同僚との信頼関係による後押しがあつてこそ	菅原 千枝子	1   17
ボランティアの協力を得て衣料品を届ける	熊谷 輝彦	1   18
お米や日用品、発電機等、多様な物資を調達	西城 寿光	1   19
備えておくこと、支え合うことの重要性	鈴木 哲則	1   20
気仙沼大島が孤立せずにする体制づくりを	菊地 利忠	1   21
大島が一つになり避難所運営や消火にあたる	齋藤 敏弘	1   22
震災の教訓を後世へ、日本全国、世界へと伝えたい	村上 政宏	1   23
仮設住宅を巡回して、期日前投票を実施	佐藤 健一	1   24
避難所用物資の費用の支払い事務に従事	千葉 保司	1   26
求められるのは柔軟な発想と臨機応変な対応	村上 学	1   27
「命を守る」その最大の目標を達成するために	伊東 秋広	1   28
	鈴木 敦	1   29

「勝てないけど負けないように」全力対応  
 震災の経験と教訓を市の計画と個々の意識に  
 「今」を生きるひとを助けることから感じる 自らの命の大切さ  
 自衛隊の多岐にわたる活動に感謝 人命救助から市民の生活支援まで  
 予算編成と入札執行の苦労  
 現実に即し、長期の活動を見越した体制を  
 復旧復興を進めるための予算を編成  
 復旧工事等で入札不調が相次ぎ、対応に苦慮  
 停電・断水が続く中、庁舎の復旧にあたる  
 被災者情報の一元管理ができるしくみを  
 救援物資の集配拠点を旧青果市場に開設  
 時系列にに応じて必要な対応を柔軟に実施  
 課員一致団結で膨大な業務に対応 支援物資受入れ配送と罹災証明書の発行  
 応援職員の協力で、り災証明を迅速に発行  
 自分も負けれない 被害の甚大さと復旧・復興する力強さ  
 経験を伝え続けていくこと それこそが私たちの使命  
 仲間と共に知恵を出し合って丁寧な対応を  
 市職員の力を引き出すには横断的組織が必要  
 厳しい条件下でも自分のベストを尽くす  
 地域、市民、身近な力と全国からの支援に支えられて  
 避難所の衛生環境を保つ 季節に応じた適切な対策を  
 震災の教訓を今後の対応に  
 葬祭業者が手弁当でご遺体の搬送を支えてくれた  
 ご遺族の承諾を得て、埋葬（土葬）を実施  
 ご遺体・ご遺族への敬意を込めた真摯な対応  
 がれき処理の道なき道、災害庁を創設すべき

鈴木 秀光	1	30
高橋 義宏	1	31
千葉 幸美	1	32
新田 英朗	1	33
小松 三喜夫	1	34
吉田 雄一	1	35
三浦 利行	1	36
熊谷 政弘	1	37
野口 精一	1	38
阿部 正行	1	39
畠山 邦夫	1	40
三浦 幸彦	1	41
三浦 永司	1	42
小野寺 晃	1	43
小山 まゆみ	1	44
三浦 稔	1	45
小野寺 孝之	1	46
熊谷 直恵	1	47
村上 功紀	1	49
菅野 拓哉	1	50
阿部 久人	1	51
小山 邦良	1	52
及川 正弘	1	53
熊谷 芳江	1	54
菅野 俊克	1	55
小野寺 和人	1	56

庁内外とのつながり・連携を大事に市民対応  
 窓口で被災者と向かい合う中で感じた震災の傷  
 人と人とが互いに支え合いながら、自分ができることに取り組んだ日々  
 避難所と遺体安置所、窓口を交替制で運営  
 被災者の悲しみに触れ、被災者を思い 業務に取り組んだ日々  
 手探りの遺体安置所の運営  
 国・県と協議し国民健康保険の減免にあたる  
 突然家族を失ったご遺族に遺体安置所に対応  
 大島の皆さんと団結して物資配布等に従事  
 仮設住宅は高齢世帯五、若い世帯三、子ども世帯二で構成  
 医療・福祉・介護の連携により被災者をケア  
 被災者へのきめ細やかな対応を  
 膨大な介護保険の通知発送も協力して対処  
 平常業務の再開 被災者ニーズにあった適切な体制を  
 巡回療養支援隊の設立  
 応援職員と連携して被災者の健康管理を支援  
 災害対応にはセルフ・コントロールが必須  
 大きかった支援者の力  
 震災の衝撃は弱い人に強く伝わります  
 仮設住宅の説明会に全力を注ぐ  
 意向調査・建設・維持管理と仮設住宅を担当  
 いつかまた、子どもたちが誇れる素晴らしいまちへ  
 被災者生活支援と避難支援 次世代につながるバトン  
 助けを求めている人に何ができるかを考えることこそ、職員個人がすべきこと  
 市民・職員が安心して全力で仕事に従事できる環境づくりを  
 関連死の因果関係の証明に医師会の協力

小野寺 幸恵	1	58
佐藤 民江	1	59
熊谷 仁子	1	60
西城 かね子	1	61
菅原 陽子	1	62
藤野 克志	1	63
村上 善浩	1	64
小松 広和	1	65
菊田 隆二	1	66
伊藤 丈人	1	67
熊谷 修一	1	69
亀井 保勝	1	70
日野 卓	1	71
遠藤 光春	1	72
村上 悦子	1	73
熊谷 和江	1	74
三浦 京子	1	75
吉田 潤子	1	76
斎藤 和子	1	77
小野寺 伸一	1	78
金野 政義	1	79
齋藤 綾子	1	80
吉川 良一	1	81
尾形 庄衛	1	82
小野寺 憲一	1	83
鈴木 真澄	1	84

極限の状態を感じた命の大切さ

中央公民館屋上で園児とともに救助を待つ

子どもたちを地域の内外から支えることの大切さ

様々な状況を想定した訓練を地域の方々と

漁業区域の拡大による水産加工施設の集積

水産業の早期復旧・復興をめざして

震災を忘れまいと胸に刻み水産業復旧に尽力

カツオの水揚げ時期までに魚市場を再開する

気仙沼の将来を輝かせる「みらい造船」

大規模災害の発生を見据えた平時からの取組を

移動ニーズに対応したバス路線を開設

市民に情報を届ける臨時災害FM局を開局

復興に向けて生きる希望と事業者の再建

がれきが残る中でも未来の気仙沼を見据えて

「足るを知る」 災害時に生きるために必要なこと

市民との丹念な対話による信頼関係の構築を二次避難対応と災害公営住宅の入居対応

農家のための災害復旧・復興とは何か

命をつなぐ食料の確保 改めて感じた日ごろの絆

災害の経験・教訓を伝えることのできる業務継続計画を

農地のがれき 人力でできることから対処

仮設商店街の立ち上げ 出口や選択肢が示せない中で

津波死者ゼロのまちづくり

被災地を区画ごとの班編成で難局を乗り切る

判断に迷う現場 一日も早い復旧・復興のためにがれき処理のマニュアルを

命がけの道路啓開 孤立した市民を救うために

一日も早い復興のために がれきの撤去を滞らせてはならない

藤村 克郎

林 小春

齋藤 一子

小野寺 秀子

熊谷 秀一

佐藤 彰一

村上 秀一

鈴木 誠

熊谷 英樹

小野寺 秀実

神谷 淳

畠山 修

平田 智幸

加藤 正禎

畠山 勉

村上 忠大

小野寺 俊勝

伊藤 隆元

庄子 裕明

菊田 強

千葉 崇

小野寺 伸

金野 孝

村上 雅之

尾形 正則

菊田 貴光

1 | 藤村 克郎 1 | 85  
1 | 林 小春 1 | 86  
1 | 齋藤 一子 1 | 87  
1 | 小野寺 秀子 1 | 88  
1 | 熊谷 秀一 1 | 89  
1 | 佐藤 彰一 1 | 91  
1 | 村上 秀一 1 | 92  
1 | 鈴木 誠 1 | 93  
1 | 熊谷 英樹 1 | 94  
1 | 小野寺 秀実 1 | 95  
1 | 神谷 淳 1 | 96  
1 | 畠山 修 1 | 97  
1 | 平田 智幸 1 | 98  
1 | 加藤 正禎 1 | 99  
1 | 畠山 勉 1 | 100  
1 | 村上 忠大 1 | 101  
1 | 小野寺 俊勝 1 | 102  
1 | 伊藤 隆元 1 | 103  
1 | 庄子 裕明 1 | 104  
1 | 菊田 強 1 | 105  
1 | 千葉 崇 1 | 106  
1 | 小野寺 伸 1 | 107  
1 | 金野 孝 1 | 109  
1 | 村上 雅之 1 | 110  
1 | 尾形 正則 1 | 111  
1 | 菊田 貴光 1 | 112

市立病院への道路確保から災害対応を開始  
 私有地のがれき撤去、建物解体等を進める  
 市民の命をつなぐ道路を啓く  
 地域の絆を頼りに復興をすすめる がれきの撤去も土地の取得も所有者の同意を得るところから  
 住宅復興までの長い道のり  
 技術の継承と情報の共有が円滑にできる組織へ 一日も早くまちを復興させるために  
 女性の声を避難所運営に取り入れることの重要性  
 用地の確保 一日も早い復興のために必要なこと  
 安心できる住まいの確保に心を砕いた毎日  
 へりで救助され、下水の応急仮復旧に奔走  
 下水処理の大切さ改めて痛感  
 地盤沈下対策等に対応  
 市民の生活を支える 下水道施設の早期復旧を  
 あと少し高い津波だったら助からなかったかもしれない  
 一万台の被災車両の撤去と一千億円の復興事業  
 被災者の気持ちとなって説明に努める  
 被災車両の対応 財産としての扱いを丁寧に  
 歳入歳出に関わる業務を止めないように動く  
 市の経済を安定的に動かす 金融機関との調整に奔走  
 都市ガスとプロパンガスの一長一短  
 ベテラン職員の能力の高さが水道を守る  
 被災した水道事務所の再起 被害を最小限に留めるために日ごろの備えと訓練を  
 「水道はありがたい」との声に背中を押されて  
 経験を生かした若手職員の育成を  
 事業計画推進のために求められる総合的見識力 同時進行の復旧・復興事業のなかで  
 熱い思いで一日も早い水道復旧作業

今野 和幸	113
佐藤 克美	114
菅原 通任	115
小野寺 知博	116
佐藤 清孝	117
佐々木 守	118
佐藤 沙織	119
村上 博	120
小山 一義	121
鈴木 徳之	122
村上 久利	124
熊谷 勲児	125
小野寺 知幸	126
齋藤 肇	127
広瀬 宜則	128
齋藤 潤	129
佐藤 好和	130
廣野 純朗	131
村上 信光	132
小山 義徳	133
菅原 英哉	134
畠山 智之	135
吉田 洋吉	136
小野寺 一良	137
佐藤 靖	138
佐々木 昭市	139

仮設の露出配管も使って水を送り届ける 市民と事業者の一日も早い復興のために  
 市民の安心を支える水道事業の復旧に向けて  
 燃料と発電機を確保し、浄水処理を継続  
 迅速な判断と行動で貫く信念  
 都市ガス利用者からの約二千件の電話に対応  
 二度と同僚を失うことのないように  
 「海と生きる」ための教育とは何か  
 授業再開、心を鬼にして教室を空けてもらった  
 学校と避難所を結ぶスクールバスを運行  
 懸命な教育施設の環境改善の復旧  
 チーム対応が難局を乗り切る支えに  
 避難所へ給食を 協同調理場と職員を可能な限り動員する体制で  
 職員ひとりひとりがそれぞれの立場で災害時に何ができるかを考えることの大切さ  
 特例法等に沿って、支払案件を慎重に審査  
 地域をまとめる文化の力  
 全ての屋外体育施設が災害対応に利用される  
 九箇月超に及ぶ避難所運営は戦いの連続  
 「神様やり過ぎだよ」と思いながら、調理場での炊き出しに従事  
 津波避難から伝えたいこと  
 現場で判断する覚悟  
 多くの協力を得て総合体育館の避難者を支援  
 自分を犠牲にして助け合う市民の姿を励みに  
 避難所の対応策も後世に継承を  
 紙一重で救われた命 一箇月寝泊まりしながらの避難所運営の中で  
 自治会や応援職員の協力を得て避難所を運営  
 多くの人の協力で命を繋いだ避難所運営 事前対策・事後検証の重要性

菊池 研司	1
小野寺 憲雄	1
昆野 正彦	1
小山 隆一	1
島山 高寛	1
尾形 明門	1
白幡 勝美	1
小山 謙一	1
伊藤 信也	1
西城 行信	1
菅原 宣昌	1
木村 悟	1
笠沼 百子	1
熊谷 和彦	1
吉田 喜美夫	1
小山 明光	1
横川 幹夫	1
岩渕 秀俊	1
吉田 英夫	1
及川 正男	1
島山 美雪	1
前田 公男	1
鈴木 實夫	1
菅原 満喜	1
佐々木 恵子	1
佐藤 弘	1
	167
	166
	165
	164
	163
	162
	161
	159
	158
	157
	156
	155
	154
	153
	152
	151
	150
	149
	148
	146
	145
	144
	143
	142
	141
	140

旧津谷川小学校の避難所運営にあたる  
被害想定やハザードマップにとらわれない実践的な訓練の大切さ

「生きる力」となる本との出会いをお手伝い

災害を個別・具体的にイメージし、地に足の付いた気仙沼市ならではの防災対策の充実を  
いざというときのための「いつも」の備えを

全国からの支援 お願ひすることと受け入れることの難しさ

平時と異なる議会運営の中で感じたジレンマ

ひとりひとりが自分の安全を自分で守る意識を

資機材、場所、そして人、災害に備えて必要なこと

今後の災害対応に向けて、庁内での情報共有体制と適切なマニュアルの整備を

先祖からの言い伝え 今度は自分が伝えていく番に

計画通りにはならない事態を救う日々の訓練

事務局職員総出で必要業務を乗り切る

市民が真に必要なとする情報の棚卸しを 市民と職員の板挟みで苦悩した七箇月間

防潮堤の天端を道路併用にして住民と合意形成

将来を見据えた計画と現状とのバランス

色彩を失った一年

極限状態だからこそ、住民目線の対応を 限られた職員数・ライフラインのなかで

「自分の命は自分で守る」 弛まぬ防災教育の徹底を

戸籍等の通常業務を継続し、死亡届を受理

建物解体も被災した市民によりそって

そのとき、そのときの最善の選択を

応援派遣チームと連携して健康管理を支援

唐桑総合支所の職員全員が協力して災害対応

孤立解消に向けた懸命な復旧活動

孤立した唐桑地域での活動

菊川 博

池田 司郎

山口 和江

島山 拓男

齋藤 英晴

齋藤 守

菅原 光雄

佐藤 勉

村上 充

高橋 恵一

佐藤 和明

吉田 信一

齋藤 繁

宮井 英夫

千葉 正光

小川 良直

穀田 耕一

鈴木 陽一

千葉 光広

星 文子

猪股 一信

島山 孝市

鈴木 妙子

荒澤 實

梶原 達夫

小松 泰志

1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168

本吉総合支所に急ぎ戻り、災害対応を指揮道の駅の直売センターと食堂をGWに再開  
 振興会（自治会組織）と行政の二人三脚で緊急対応  
 地域と行政とが力を合わせて気仙沼の復興をあふれる情報の中、情報共有こそ重要  
 地域や隣町との絆 震災時にいきたこと  
 支所に飛び交う安否確認の声 日ごろからの習熟の重要性  
 壁全面が情報掲示板 情報の収集と共有の方法を工夫  
 市民生活に係る様々な不安を解消できるように  
 搜索現場から担架を使ってご遺体を搬送  
 まちづくりはひとづくり 市民同士の尊い支え合い  
 被災しながら被災者支援することの難しさ  
 被災者の栄養の偏りの改善に取り組む  
 職員も含めた被災者すべてに心のケアを  
 災害対応を通じて感じた、地域の絆と命の大切さ  
 自らの命を守り、地域で支え合えるまちづくりを  
 市民との信頼関係がまちづくりのスタート  
 一定の基準に沿って防災集団移転計画を作成  
 殺到した患者に医療を提供  
 ピンチをチャンスに 新しい地域医療の拠点として

## 二 気仙沼市議会

被災したまちの被災した議長として、被災した仲間の声に応えたい  
 同じ悲劇を二度と繰り返さないために  
 在宅避難者や縁故避難者の孤立防止を

千田 孝昭	1	194
高橋 博明	1	195
畑中 章	1	196
米倉 博	1	197
千葉 正幸	1	198
佐藤 邦彦	1	199
佐々木 国明	1	200
及川 安寿	1	201
須藤 孝行	1	202
米倉 之泰	1	203
金賀 重子	1	204
佐藤 兼一	1	205
三浦 幸江	1	206
鈴木 由佳理	1	207
今野 昌子	1	208
菅原 誠一	1	209
小野寺 宏志	1	210
小野 有道	1	211
加賀 秀和	1	212
畠山 篤朗	1	213
白井 真人	2	1
及川 善賢	2	2
村上 進（社）	2	4



必要な情報を的確に収集し、的確に行動すること  
 被災者に寄り添いながら復興に力を尽くす  
 住民の団結力で避難所運営も本吉病院の清掃も  
 市民の想いによりそった情報提供と対応を  
 現場で自信を持って対応できる判断力を  
 復旧期のまちの安全を守る活動  
 陸の孤島唐桑を支えた地域内外の力  
 監査委員として復興事業の監査にあたる  
 生活に不可欠な命の水を届ける  
 避難訓練をきちんと行うことが大切  
 階上地区の暮らしと仕事の復興を支援  
 住民の声を元に大谷地区の復興にあたる  
 住民の強い想いが「防災集団移転」につながる  
 「困ったときはお互い様」自分よりも辛い思いをしている人への配慮  
 日頃の訓練・備えが震災時に役立つ  
 ひとりひとりが自立した「自助」体制の構築を―「おばか隊」を全国のお手本に―  
 自然の素晴らしさと計り知れなさを伝え残そう ―生き残ったものの宿命とともに生きる―  
 隣同士の家族構成がわかる地域の良さをこれからも  
 日常の当たり前が失われる現実を見据えて  
 避難所、在宅避難、みなし仮設、さまざまな被災者がいることを考慮して  
 ありがとう、これからも頑張つて生きていきます  
 鹿折地区の復興まちづくりに取り組む

### 三 市民、避難所

気仙沼を未来と希望にあふれるまちへ！ ―ヘドロの中で見つけた柳刃包丁を光に変えて―

村上力男

3 | 1

千葉 慶人	2   5
村上 進 (公)	2   6
三浦 由喜	2   7
秋山 善治郎	2   8
菅原 清喜	2   9
村上 佳市	2   10
鈴木 高登	2   11
佐藤 健治	2   12
佐藤 一郎	2   13
小野寺 俊朗	2   14
守屋 守武	2   15
高橋 清男	2   16
佐藤 仁一	2   17
及川 一郎	2   18
熊谷 伸一	2   19
菅原 博信	2   20
辻 隆一	2   21
尾形 健	2   22
小野寺 修	2   23
佐藤 輝子	2   24
小山 和廣	2   25
村上 俊一	2   26

地域が孤立する中、協力して乗り越える

見知った地区の全員でサバイバル

息吹続ける相互扶助と自治の精神 —住民の命を守った事前対策とコミュニティ再興—

地域のあらゆる資源を活用して避難所を運営

孤立した大島で地区相互に助け合った十日間

地区の世帯情報をもとに必要な物資を必要どころへ

安全安心を高める防災マップ

地区で定めたマニュアルを皆で理解し実践すること

三回の津波被災の経験を地域の力に

地区のみんなで助け合って

楽しいことも辛いことも、みんなで唄って分かち合える地区に

生活の知恵を継承し、災害時に生き抜こう

市内第一号の防災集団移転団地

情報収集と情報共有は災害対応の基本

日本一楽しい避難所にしよう! —避難所運営で築いた避難者との絆—

「困ったときはお互い様」 —心一つに取り組んだ被災者支援—

避難生活にも日常の安らぎを —多くの出会いと支援に支えられて奔走した二百八十七日間—

地域にある公共施設としての学校の役割

市、地域、学校が連携して、有事の対応に当たれるように

保護者を待つ子どもたちと一緒に見た満天の星

人に、地域に生かされて —子どもたちも地域住民も皆で過ごした一箇月—

災害への備えが震災時に大いに役立つ

気仙沼発、培った経験の多様な発信を —強い絆に支えられた七十日間の避難所運営—

人間が人間らしく生活できるように

職員皆の知恵とアイデアで苦難を乗り越える —ライフラインが途絶える中での他施設からの受入—  
六十名の避難者を十日間受け入れる

小山 節男 3 | 3

尾形 順一 3 | 4

森谷 利男／内海 輝幸 3 | 5

島山 光夫 3 | 6

伊東 卓夫 3 | 7

村上 晏孝 3 | 8

戸羽 芳文 3 | 9

小山 昌男 3 | 10

鈴木 茂 3 | 11

武田 一治 3 | 12

米倉 兵一 3 | 13

佐藤 和文 3 | 14

三浦 康成 3 | 15

佐藤 万二 3 | 16

鈴木 治雄／鈴木 美和子 3 | 17

高橋 清七 3 | 18

松下 尚子 3 | 19

千田 健一 3 | 20

大江 祐子 3 | 21

千葉 陽子 3 | 22

尾形 明美 3 | 23

熊谷 望 3 | 24

加藤 英一 3 | 25

須田 祐子 3 | 26

佐藤 久子 3 | 27

熊谷 正之 3 | 28

「生徒たちの避難を頼む」の一言とその覚悟  
命をつなぐ判断力と行動力  
先が見えない中で避難者の受入れにあたる

片岡 剛 3 | 29  
川村 桂史 3 | 30  
堺 秀浩 3 | 31

#### 四 関係行政機関

厳しい状況に置かれた災害弱者を救助  
大島の総力を挙げて亀山の山林火災を防御  
「津波でんでんこ」とは家族と地域を信じる力  
防災センターで消防団の活動を後方支援  
地域を守る消防団の活動をこれからも  
分団の各班が協力し、唐桑を守ってほしい  
命を伝える消防無線  
月に一度の消防無線訓練の成果  
緊急消防援助隊の「心」  
震災後の対応を振り返って  
東日本大震災をとおして得たもの  
巡視艇で大島島民の救急搬送等にあたる  
震災の経験 国道四十五号道路啓開について  
郷土部隊の経験と教訓  
東日本大震災災害派遣を通じての所感  
自衛隊と気仙沼の橋渡しの自負  
大島と米軍海兵隊との友情で結ばれた絆

三浦 勝郎 4 | 1  
佐藤 健一 4 | 2  
武山 文英 4 | 3  
奥田 良一 4 | 4  
横山 久一 4 | 5  
前田 康太郎 4 | 6  
吉田 秋男 4 | 7  
佐藤 憲行 4 | 8  
五十嵐 幸裕 4 | 9  
三浦 理 4 | 10  
千葉 周二 4 | 11  
小野寺 宏明 4 | 12  
佐々木 伸太郎 4 | 13  
大場 智覚 4 | 14  
中村 昭二 4 | 15  
小野寺 悟 4 | 16  
ロバート・D・エルドリッチ 4 | 17

#### 五 指定公共機関等

全国から応援を受け、電話の復旧にあたる  
気仙沼における日赤の東日本大震災対応

一刻も早く電気をお届けしたい — 使命感に支えられた安全かつ迅速な電力復旧 —

仮設住宅のガス配管工事を協力して実施

「市民のために何をなすべきか」を最優先に — 災害時医療とその後の地域医療再開へ、切れ目なく医療をつなぐ —

地域の産婦人科開業医としての救護対応 — 災害対応を通じた事前の備えの大切さ —

子どもは社会の宝、災害時に守れる体制づくりを — 自転車で回り続けた救護所での診療 —

地域の一次医療を預かる者としての使命

病院の存続に向けて、早期復旧に動く

被害が少なかった病院として使命を果たす

災害ボランティアセンターを開設・運営

三十六日間、高齢の避難者等を受け入れる

こんな時だからこそ階上を支えよう — 避難所運営を通じて痛感した人の素晴らしさ —

市民の生活を支えるために — 金融・共済に奔走した復興支援 —

海で生業を営む覚悟

復旧のため同業のライバルが力をあわせる

## 六 民間団体

オール気仙沼の体制でがれきを撤去・運搬

建築・土木業者が協力して復旧作業に従事

市内外の協力を得て廃棄物処理へ対処

一日でも早く気仙沼を復興するために — ライフライン企業として奔走した一箇月 —

水道の復旧も住宅の再建も地元企業で力をあわせて

亡くなられた方の大切な人生の行為を共に

被災地の葬儀会社としての使命を果たす — 丁寧に向き合い続けたご遺体のお見送り —

菅原 正敏 5 | 1

佐伯 達人 5 | 2

柴田 拓哉 5 | 3

佐藤 進 5 | 4

藤田 正廣 5 | 5

森良 一郎 5 | 6

三条 雅英 5 | 7

小高 庸一郎 5 | 8

新階 敏恭 5 | 9

連記 成史 5 | 10

鈴木 美紀 5 | 11

畑山 貴浩 5 | 12

佐藤 俊章 5 | 13

千葉 一也／高橋 澄／吉田 仁 5 | 14

熊谷 浩幸 5 | 15

臼井 賢志 5 | 16

小泉 進 6 | 1

熊谷 敬一郎 6 | 2

小山 堅 6 | 3

石川 憲一 6 | 4

川村 和賀枝 6 | 5

谷村 明信 6 | 6

吉田 明昇／吉田 明法 6 | 7

皆さんからいただく「おかげさまでした」を励みに

雨にも津波にも負けない！地域の一員として果たした使命

地域の新聞社として

ミニコミ紙を通じて身近な情報を届ける

気仙沼の情報はいつでもFM77・5MHzで

仕事を通じた生きがいづくり ―気仙沼の雇用と生きる目的を取り戻そう―

商工会議所青年部の仲間の支援に感謝

生かされた命を生かして

観光復興のための補助金申請を県と調整

一日も早い「水揚げ宣言」を ―社員全員が心一つに取り組んだ復旧対応―

ものづくりの原点はひとつ

復旧・復興に必要な燃料を調達・供給

過去からのギフト、次は自分たちで

被災地に寄せられたさまざまな想いを乗せて

## 七 市外からの支援

気仙沼市への震災派遣を通じて

被災地の復幸を祈って

可能な限りの方策の検討と決定する意志を

気仙沼市の復興に向けて

震災の教訓をこれからの事前防災計画に

気仙沼市で体験した『絆』

経験の伝承と伝播が復興への近道

被災地に明かりを灯す

復興の地ならしに向けて

菅原進 6―8

斎藤光代／小玉知子 6―9

渡邊眞紀 6―10

藤田裕喜 6―11

昆野龍紀 6―12

千葉貴弘 6―13

坂井政行 6―14

菊田忠衛 6―15

芥藤徹 6―16

岡本寛 6―17

清水敏也 6―18

高橋正樹 6―19

小野寺靖忠 6―20

木戸浦健敏 6―21

宮本達也 7―1

佐藤賢治 7―2

千葉賢一 7―3

佐藤大輔 7―4

木村嘉雄 7―5

小口豊仁 7―6

山崎悟旗 7―7

草場浩行 7―8

平沢典雄 7―9

災害を後世に伝え教訓として伝えること

震災経験を「忘れない」ために

震災復興事業を見据えた体制の確立

人を思う気持ちの大切さをこれからも

知ること つなぐこと

愛着ある住まいとまちの復興に向けて

海岸防潮堤の整備を経験して

震災復興復旧について派遣応援時における思い

早期復興のための方法

下水道課での処理場・ポンプ場復旧工事

あの震災を忘れない

「縁」

派遣職員だからこそ地権者交渉の先頭に

気仙沼での経験・体験

復興支援で得た貴重な経験

漁港施設災害復旧 ～これからの維持管理～

被災地派遣業務での教訓と提案について

関西広域連合気仙沼兵庫県チーム第二十二次隊

震災から改めて公衆衛生看護を考える

復興支援派遣で感じたこと

気仙沼市・浜田市はまらいん！

かき養殖の復興支援から学んだこと

避難されていた人からの手紙

可能な限り長期の派遣を ～積極性の担保のために～

佐賀きずなプロジェクト

気仙沼市への震災派遣を通じて

三浦 幸也

二島 克良

秋元 茂

瀨本 哲也

山田 浩太

島田 修

秋瀨 圭太

近藤 忠勝

弓削田 充

西田 昌史

後藤 隆

猪爪 誠

江面 智

伊藤 貴

鎌田 攻

中村 亘

鹿島 靖朗

福山 達男

森田 幸子

大本 泰久

伊藤 恵

宮林 豊

加川 英也

坂田 充司

中尾 政幸

祖父江 伸矢

7 | 10

7 | 11

7 | 12

7 | 13

7 | 14

7 | 15

7 | 16

7 | 17

7 | 18

7 | 19

7 | 20

7 | 21

7 | 22

7 | 23

7 | 24

7 | 25

7 | 26

7 | 27

7 | 28

7 | 29

7 | 30

7 | 31

7 | 32

7 | 33

7 | 34

7 | 35

震災の記憶と記録を後世に伝える  
震災初期こそ大局観とスピード感  
東日本大震災における、災害応援を終えて  
埋蔵文化財調査の未来について  
震災復興対応職員として赴任して  
気仙沼での遺跡調査をとおして

西裕治 7 | 36  
佐藤泰格 7 | 37  
小谷孝 7 | 38  
平木場秀男 7 | 39  
西園勝彦 7 | 40  
永濱功治 7 | 41